

2023年7月24日

産業別四半期見通し調査結果 (2023年7～9月期見通し)

■長野県産業天気図

◇2023年4～6月期の現況

- 全12業種中、「曇り(普通)」が10業種、「小雨(低調)」が2業種となった。

◇2023年7～9月期の見通し

- 「曇り(普通)」が10業種、「小雨(低調)」が2業種となった。方向感では、「やや上昇」が3業種、「横ばい」が9業種となっている。

天気図記号	2023年 1～3月期現況	2023年 4～6月期現況	2023年 7～9月期見通し
 晴れ(好調)	0 業種	0 業種	0 業種
 薄日(順調)	0 業種	0 業種	0 業種
 曇り(普通)	8 業種	10 業種	10 業種
 小雨(低調)	3 業種	2 業種	2 業種
 雨(不調)	1 業種	0 業種	0 業種

■7～9月期見通しのポイント



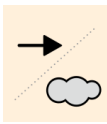





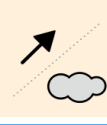


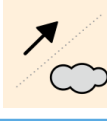


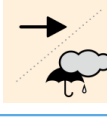

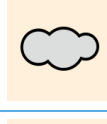
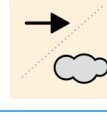


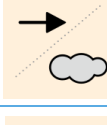


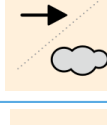












- 製造業、非製造業ともに天気図は変わらない見通し。


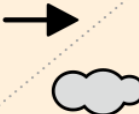
照会先
一般財団法人 長野経済研究所
調査部(担当: 桑井、伊東)
TEL: 026-224-0501


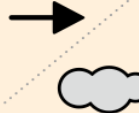




<産業別天気図一覧(12業種)>


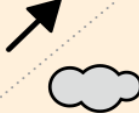
- 調査内容:業界の「現況」、「見通し」は、県内の企業経営者が業界の景気をどうみているかについてアンケート調査とヒアリング調査をした結果を基に、当研究所が判断した。
- 調査期間:2023年6月中旬～2023年7月上旬
- 調査回答企業:県内主要企業12業種の109社


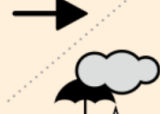
業種	前期 (23年1～3月期)	今期 (23年4～6月期)	来期 (23年7～9月期)
生産用機械			
電子部品・デバイス			
自動車部品			
飲料製造			
食料品製造			
機械器具卸			
大型小売			
自動車販売			
公共工事			
民間工事			
貨物			
観光			


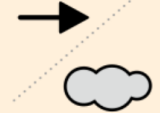
生産用機械	受注は、国内向けの自動車関連を中心に底堅い見込み
<p>● 現況</p> 	<p>生産用機械の受注は、自動車関連では底堅かったが、PCやスマートフォン向けなどIT関連の半導体需要の落ち込みが続き、全体では減少した。今後の受注は、IT関連は引き続き低調なもの自動車関連は生産の回復から設備投資も動き始めるとみられ、総じて堅調な見通し。また、半導体やコネクタなどの部品不足は和らぎ、機械の納期長期化は緩和する見込み。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 工作機械の受注は、国内では主力の自動車関連で完成車メーカーの生産が回復することで、堅調が見込まれる。海外は、IT関連で低調が続く見通し。また中国では景気減速の影響から電気自動車(EV)向けが一服しやや減少する見通し。 ● 半導体製造装置の受注は、IT関連の半導体需要が回復せず引き続き低調な見通し。


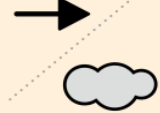
電子部品・デバイス	車載用を中心に受注は堅調な見通し
<p>● 現況</p> 	<p>電子部品の受注は、海外経済の減速などからPC・スマートフォン向けなどIT関連が低調だった。車載用は、半導体不足の影響が一部で残るものの、電気自動車(EV)向けを中心に需要は強く、受注は堅調だった。産業用は、半導体製造装置向けを中心に受注が減少した。今後は、海外経済の減速やPC・スマートフォン向け半導体の在庫調整が続き、IT関連は低調な見込み。一方、EV向けなどを中心に車載用は底堅く推移し、総じて受注は堅調な見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● IT関連は、完成品の需要が減少することで、部品受注は低調な見通し。 ● 車載用は、EV向けなどを中心に需要は底堅く、受注は堅調に推移するとみられる。 ● 産業用は、半導体需要の低下から半導体製造装置向けを中心に受注は減少する見通し。


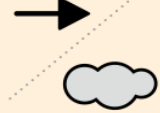
自動車部品	車載用の半導体不足が緩和し、受注は堅調に推移するとみられる
<p>● 現況</p> 	<p>車載用の半導体不足が徐々に緩和し、完成車メーカーの生産が回復基調に転じたことで受注は増加した。今後も半導体不足は緩和していき、受注は堅調に推移する見通し。ただし、車載用の半導体不足の影響は完全には解消されず、コロナ前の水準には届かない見込み。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 国内向けは、スポーツ用多目的車(SUV)を中心に新車の需要が強いことに加え、半導体不足の緩和により完成車メーカーの生産が回復し、受注は堅調に推移する見通し。 ● 北米や中国向けは、半導体不足による供給制約が改善され受注は増加する見込み。東南アジア向けは、半導体不足が緩和していることに加え、新車需要が強く、受注は引き続き堅調に推移する見通し。


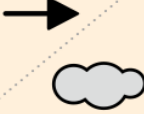
飲料製造	価格転嫁が進むことで収益は改善していく見通し
<p>● 現況</p> 	<p>飲料需要は、新型コロナの感染症法上の分類が5類に移行したことで、飲食店や宿泊施設の利用客が増加し底堅く推移した。ただ、仕入価格や電気料金等が高止まる中、販売価格の引き上げが一部にとどまったことにより、収益の回復は限定的だった。今後、飲料需要の増加とともに、価格転嫁も進むとみられ収益は改善していく見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 果汁・野菜飲料やミネラルウォーターなどの清涼飲料水は、最需要期に入るほか人出の増加も見込まれ、受注は堅調な見通し。 ● 清酒やワインなどのアルコール飲料は、宴会や観光需要の増加に伴い、持ち直すと思われる。


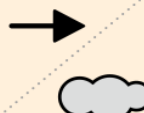
食料品製造	需要は底堅いが、厳しい収益環境が続く
<p>● 現況</p> 	<p>外食需要が増加するとともに、販売価格引き上げにより売り上げは堅調に推移したが、原材料や電気料金などのコスト上昇分の価格転嫁は一部にとどまり収益は減少した。今後も、需要は底堅いが、原材料価格や各種コストの高止まりが見込まれる中、販売価格への転嫁は限定的とみられ、収益面は厳しい状況が続く見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 味噌・乾燥食品・加工肉などは、減塩、無添加など健康に配慮した製品を中心に売り上げは堅調な見通し。ただし、各種コストは高止まりしており、収益面は厳しさが続く。 ● そば粉・油揚げ・トマトソースなどは、外食需要の高まりから業務用の需要増加を見込む。 ● 弁当・惣菜は、人出が回復することから需要は堅調に推移する見込み。


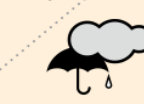
機械器具卸	省力化・自動化ニーズを背景に機械需要は堅調な見込み
<p>● 現況</p> 	<p>機械需要は、PCやスマートフォン向けの半導体関連では減少したが、自動車関連は堅調で、総じて底堅かった。また、売り上げも販売価格の引き上げにより増加した。今後、機械需要は、省力化・自動化ニーズを背景に堅調な見込み。ただ、工作機械やFA機器などでは部品不足に伴う商品不足が続き、新規受注分の納品は年後半か年明け以降となる見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 工作機械などの機械需要は、IT関連の半導体製造装置向けは低調が続くが、自動車向けは完成車メーカーの生産回復に伴い底堅い見通し。制御機器などのFA機器の需要は、自動化ニーズを背景に堅調な見込み。空調機器の需要は、最需要期を迎え増加する見込み。 ● 切削用工具類などの消耗品受注は、自動車関連を中心に堅調に推移する見通し。


大型小売	食料品は堅調に推移するが、収益面の厳しさは変わらない見通し
<p>● 現況</p> 	<p>食料品は、堅調な需要に加えメーカー値上げ分の価格転嫁により売り上げは増加した。衣料品は、客数は減少したもののセールが堅調だった。今後も値上げによる売り上げ増が見込まれるが、競合店間の競争などで値上げ幅は抑えられるとみられ、収益面は厳しい見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 百貨店は、物産展が順調なこともあり食料品は総じて堅調な見通し。衣料品は、外出・旅行需要で客数増加が見込まれるが、売り上げは前年並みとなる見通し。 ● スーパーは、食料品は生鮮食品を中心に堅調なほか、値上げに伴う販売価格上昇で売り上げは増加する見通し。ただ、節約志向により買上点数の減少は続く見込み。また、競合店間の競争から価格転嫁は限定的とみられ、収益面の厳しさは変わらない見通し。

自動車販売	納車遅れが緩和され、新車販売は底堅く推移するとみられる
<p>● 現況</p> 	<p>新車販売は、車載用半導体不足による納車遅れが徐々に緩和されたことで、コロナ前の水準には至らないものの、前年を上回って推移した。今後は、半導体不足の緩和が進むことから、販売台数は底堅く推移する見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新車販売は、納車遅れが緩和していくとともに、安全性能や環境性能を備えた車種への買い替えが進み、堅調に推移する見込み。 ● 中古車販売は、新車への買い替えに伴う下取り車の増加により中古車の在庫・価格が落ち着き、底堅く推移する見通し。 ● 輸入車販売は、高価格帯の車種を中心に需要は底堅く、堅調に推移する見通し。

公共工事	防災・減災工事や道路補修工事などで安定した工事量を見込む
<p>● 現況</p> 	<p>三遠南信自動車道に関連した大型工事や防災・減災工事などにより、全体の工事量は堅調だった。今後も、国土強靱化計画に伴う土木工事に加え、高速道路や橋梁のメンテナンス・耐震補強工事などが引き続き見込まれ、安定した工事量となる見通し。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 国では、三遠南信自動車道整備や国土強靱化計画に伴う防災・減災に向けた工事の発注が継続され、底堅い工事量が見込まれる。 ● 県では、治山工事や河川の砂防工事に加え、道路や橋梁の補修工事などにより、堅調な工事量となる見通し。 ● 市町村では、土木工事や施設改修などを中心に、安定した工事量を見込む。
<p>● 見通し</p> 	

民間工事	民間企業の建設投資需要は底堅く堅調な工事量となる見通し
<p>● 現況</p> 	<p>民間企業の建設投資は、製造業の工場の新增設に加え、運輸業でも倉庫などの新增設がみられ、工事量は底堅かった。新築住宅は、持家は伸び悩んだが、分譲マンションの需要が堅調で、全体の着工数は前年並みだった。今後、企業の建設投資需要は底堅く、業界全体では堅調な工事量となる見通し。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 民間企業の建設投資は、設備投資への積極姿勢がみられることから、製造業を中心に工場の新増設の動きが見込まれ、堅調な工事量となる見通し。 ● 住宅関連は、資材価格の高止まりや市場金利の上昇傾向がみられることから、持家を中心に需要は伸び悩み、着工戸数は前年並みの水準にとどまるとみられる。
<p>● 見通し</p> 	

貨物	自動車部品等の貨物量は上向くも、全体の荷動きは低調な見通し
<p>● 現況</p> 	<p>自動車部品は半導体不足による完成車生産の遅れが徐々に和らいだが、生産用機械や食品・雑貨類などの貨物量は伸び悩み、全体の荷動きは低調だった。今後、自動車部品等の貨物量は上向くが、全体の荷動きは低調な見通し。また、燃料費や人件費など各種コストの増加に加え、24年4月から適用される残業上限規制(2024年問題)への対応に伴う新たなコスト増が見込まれ、収益環境は厳しさが続く見通し。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 生産用機械の荷動きは、輸出関連需要の落ち込みから低調を見込む。自動車部品は、部材や半導体の供給が回復して生産・出荷が上向くとみられ、荷動きは改善する見通し。 ● 食品や雑貨類は、商品の値上げに伴う需要鈍化の影響により貨物量は低調な見込み。
<p>● 見通し</p> 	

観光	夏季行楽シーズンを迎え観光需要増加を見込む
<p>● 現況</p> 	<p>5月の大型連休の日並びの良さに加え、新型コロナの感染症法上の分類が5類に移行したことで、国内外ともに観光需要は堅調だった。また、燃料費や電気料金など各種コスト増加に対しても価格転嫁が進み収益を確保した。今後は、夏季行楽シーズンを迎え観光需要の増加が見込まれるが、旅客を中心に人手不足が深刻化しており、売り上げを下押しする見通し。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 旅客は、お盆休みを中心に観光での利用増加が見込まれるほか、高速バスによる帰省客の利用が期待され、利用客は堅調な見通し。 ● 宿泊施設は、国内外からの観光利用増が見込まれるほか、出張等のビジネス利用も増加する見通し。
<p>● 見通し</p> 